

第5回「語りべの会」講師紹介

阪田憲次（さかた けんじ）先生は、岡山大学で長く教鞭をとってこられた後、ダム工学会や土木学会の会長など数々の要職を歴任されました。そして、土木学会会長としての任期も残りわずかになった平成23年3月11日、折りしも日本人留学生が被災した「クライストチャーチ地震」（平成23年2月22日発生）についての調査報告会が東京大学生産技術研究所で行われていたまさにその時、マグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。東日本大震災です。会場も震度5弱の強い揺れに襲われ報告会は中止されました。その後、土木学会ではいち早く調査団を結成、被害調査あたったのは言うまでもありません。3月23日、土木学会、地盤工学会、日本都市計画学会が連名で発表した共同緊急声明に記された「我々が想定外という言葉を使うとき、専門家としての言い訳や弁解であってはならない」という文言が世論で高く評価されたことは記憶に新しいことです。

今回は、阪田先生に「これからの水との付き合い方」を考える上ではずせない「巨大災害」について、想定外と逃げないためには技術者としては日頃どんな心構えを持つべきかを語っていただき、また災害時には一方的に悪く報道されがちなダムについては、より良い情報提供のあり方や、メディアに対しても言うべきことをきちんと言うスタンスの取り方などについて、ヒントをいただければと思います。

持続可能な社会・経済の発展には無駄のないインフラ整備が欠かせないはずですが、今後ムダな公共事業の象徴のようにダムが取りざたされることのないよう、多くの人にその存在意義や働きを理解してもらうための取り組みを行っていきけるよう、阪田先生を囲んで有意義な議論の時間が持てれば幸いです。



プロフィール

阪田 憲次（さかた けんじ）

岡山大学名誉教授

昭和18年4月16日 生まれ

略歴：

昭和42年3月 京都大学工学部土木工学科卒業

昭和44年3月 京都大学大学院工学研究科土木工学
専攻修士課程修了

昭和52年4月 岡山大学助教授（工学部土木工学科）

昭和63年4月 岡山大学教授（工学部土木工学科）

平成6年10月 岡山大学教授（環境理工学部）

平成8年10月 岡山大学評議員
（平成10年9月まで、1期2年間）

平成11年4月 環境理工学部長
（平成15年年3月まで、2期4年間）

平成15年4月 大学院自然科学研究科長
（平成17年3月まで、1期2年間）

平成21年4月 岡山大学名誉教授

その他学会活動等：

平成20年～22年

（社）日本コンクリート工学協会会長

平成21年～22年ダム工学会会長

平成22年～23年 土木学会会長

土木学会東日本大震災特別委員会委員長